



TITLE:

サー・ウォルター・ラレーの『和蘭貿易に関する考察』

AUTHOR(S):

山口, 正太郎

CITATION:

山口, 正太郎. サー・ウォルター・ラレーの『和蘭貿易に関する考察』.
経済論叢 1920, 11(2): 286-290

ISSUE DATE:

1920-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/127684>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 二 號 第 十 卷

論 說

德川時代の税制……………法學博士 瀧本 誠一

基礎社會の發達方向(一)……………文學士 高田 保馬

租税の限度に就きて(二・完)……………法學博士 神戸 正雄

鎌倉時代の家族制度(七・完)……………文學博士 三浦 周行

マルクスの勞働價值論の根本命題(一)經濟學士 堀 經 夫

時事問題

經濟界不安の繼續……………法學博士 戸田 海市

超過所得税論……………法學博士 小川郷太郎

雜 錄

現代支那に於ける社會上の一缺陷……………文學士 小島 祐馬

收穫遞増減の諸觀點……………法學士 石川 興二

ラレーの「和蘭貿易に關する考察」……………法學士 山口正太郎

近刊の經濟史に關する三著述……………法學士 本庄榮治郎

サー・ウォルター・ラレーの

『和蘭貿易に關する考察』

山口 正太郎

英國の所謂世界商權成立時代の代表的經濟學者トマス・マンの出づる前、即ちロッシヤーの所

謂 Die Gründung des Englischen Kolonialreichs

時代では學問としての經濟學は無かつたが時事論として當時の和蘭の外國貿易の隆盛に刺戟せられて實地植民經營者間から爲政者に對する献策或は海外旅行の印象等が續々公にせられ如何にして和蘭に倣つて英國を富ますべきか、國權擴張の方法如何等が盛んに論ぜられてメルカンチリズム發生の基礎を形成したのである。此時代に主きをなすものはサー・ウォルター・ラレー Sir Walter Raleigh で其主著 The discovery of

the large, rich and beautiful empire of Guiana は後年 Hackluyt 氏が編集した English Voyages 中に收められてあるが茲處には氏が當時の國王ジョージス一世に獻じた Observations touching Trade and Commerce with the Hollander, and other Nations の内容を紹介しようと思ふ。此書はオーバーストーン卿が彼の友人に與へるため特に百五十部だけ印刷した a select collection of scarce and valuable Tracts on Commerce 中に載せられてゐる。

二

予は和蘭を旅行して感じた事は今日世界の驚異となつてゐる和蘭の富力は常に和蘭國民が富源を枯らすまいとの努力の結果であつて我英國と貿易することによつて英國の財貨を盡く取り上げて遂には貿易場裡から驅逐しよう finally beat us quite out of trading として居る。和蘭國は商人を海外に出して到る處に駐在せしめて其地の人々と交らしめ、其地に大きな倉庫 stone houses を建て自國の生産品で自國で餘剩となつ

- 1) Roscher, Zur Geschichte der englischen Volkswirtschaftslehre im 16 u. 17 Jahrhundert. Leipzig 1851 S. 22. 福田博士、經濟學考證三八〇頁
- 2) 福田博士、經濟學考證三八一頁

たものを外國の此種の倉庫に持ち込んで置いて外人と交換して巨利を得る。此事は國富増進が主なる目的ではあるが同時に亦、國內の貧民を外國に出して働かし得る譯で彼等貧民の救済ともなるのである。

和蘭人が我英國人よりも有利である一例は和蘭人は *Boort* (一種の沿岸貿易用の小船) を用ひて可成り多量の商品運搬する。そこでダンチツヒへ向けて同じ貨物を英國船と和蘭船とで競争するとすれば和蘭船は約百磅運賃が安價である、それは英船によると水夫が三十人かゝるが和蘭船では九人か十人で済むからである。其一航海で二十人の水夫の食料と賃銀が違つて來るゝんな有様で沿岸貿易では英國船は驅逐せられて港の内部で空しく壞れるか、高々ニューカッスルへ石炭を積載するため出航する位である。

和蘭の關稅は輸出、輸入兩稅とも英國よりも安い。例へば二隻の英船が佛國のボルドーで各三百噸の葡萄酒を載せて一隻は英國へ一隻は和蘭へ向つたとする。英國では此際關稅を九百磅

取るが和蘭では僅かに五十磅位である。關稅で國富を増進せしめようとするのは愚策であつて關稅が安いと貿易が盛んになつて従つて國富も増し却て關稅で損をするのを補つて餘りがある。

內國稅は國家の財源中大きなものではあらうが外國では甚だ軽い、ボルドーでは六噸迄の葡萄酒は自家用として無稅である、兎に角稅の安いと云ふ事は國民殊に商人に有利で且つ元氣を與えるものだ。

英國と和蘭とを比較して後者の優れてゐる點を擧げると。

一、和蘭人は大きな倉庫を造るから商品の貯藏が行はれ従て取引が大量になる。

二、和蘭人は自國內でも國外でも外國人と商取引するのは至極自由であること。

三、和蘭は關稅が安いから外國商人は競つて彼等と取引をしようとする。

四、和蘭商船は英船に比して水夫の數少くて濟むを以て運賃安きこと。

五、和蘭商人は貿易事務に熟達せること。

六、和蘭漁船の構造良く漁獲の多きこと。

七、和蘭は初めて取引する地方に對しては輸入輸出兩税を無税とするから其地方との貿易を獨占し得ること。

(註) ラレー當時の經濟論は多く實際家の手に成つたもので

ラレーに次いで出たトマス・マンの如きも東印度會社の重役たる經驗から當時の英國が外國貿易により國權を伸張せなければならぬ事を述べたので極端なる商人崇拜論であつて彼の名著の卷頭に First of all I will say something of the Merchant, because he must be a Principal Agent in this great business といふが、マンの書はアダム・スミスが賞讃した如く商業立國、商人崇拜の極致であつて賣るを多くして買ふを少くすることによつて favourable Balance を作るこそが國權伸張の第一義である事を高調した純商人論である。

ラレーの時代は和蘭最隆盛時代で英國にとつては和蘭羨望時代とも云ふべきもので當時の學者實際家は大抵、和蘭の隆盛を述べて其原因を研究してゐる。茲に一例としてフナントナーを擧げると、by their industrious diligence in Trade, they are not only furnished with whatsoever the world affords and they want, but by the profit of their trade they excel in plenty and riches, all their

neighbour nations によつてゐる。

金銀過重、輸出入權衡論は當時のメルカンチリズムの骨子にあらずして却て國民經濟成立をクルン、パンクトとした國家の經濟政策だ云々。... alles dies diene dem einen Zwecke, eine nach aussen abgeschlossene Staatswirtschaft zu schaffen. マンヒヤーの解釋は興味ある問題である。

三

佛蘭西では年に二回或は三回、關稅を課せないので貿易を許すことがある、其時には往時には英國品を持つて行つて交換して歸る時には佛國品を澤山持つて歸るがよい。丁抹では商業を繁榮せしめるため一年中に唯一ヶ月を除いて他は關稅を取らない。佛、葡、西、伊、土、東印度の商品は大抵和蘭人によつて波蘭、丁抹、獨逸へ送られるが英國が此方面に努力するならば地の利によつて丁度よい大倉庫の様なもので中繼するのに便利である、飢饉になると和蘭人は數百艘の舟に乗つて我英國を取り巻き僅かな商品で澤山な我國の富を持つて歸る、こんな時には和蘭以外と通商取引することは出来ない。だか

- 3) Thomas Mun, England's Treasure by Foreign Trade. 1664. Ashley's Economic Classics p. 1.
- 4) Adam Smith, Wealth of Nations, B. IV, Cannan's ed p. 401.
- 5) S. Fortrey, England's Interest and Improvement. 1663. Hollander's Reprint p. 12.
- 6) Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft. 1901. S. 160.

ら此弊害を除去するためには船を多く作り且つ商人を養成して我國の富を他國へ出さぬ様必要とするのみで無く外國の富を奪つて來ることが必要である。

アムステルダムには常に七十萬クォーターの穀物を缺かした事が無く其以上常に貯えてゐるそれで英國に飢饉があると例へば今を去る六年前の様な飢饉にはハンブルグ又は和蘭から穀物を供給する、その對償として一年半の中にサヴンプトンとプリストルから二拾萬磅の金を持つて行かれた、だから飢饉がある毎に和蘭の富を増すことになる。和蘭は常に五百隻乃至六百隻の船を我國へ向け倉庫を建て、其處に商品が容れるそれも外國から得たものだが其商品の値が彼等の欲する様に騰貴する迄据置くのである。然るに英國の船は五十隻足らずしか和蘭へ向ふものが無い状態にある、それも大抵は石炭を積載する位のものである。

伊太利のゼノアは大厦軒をならべ商業股盛であつたが一六%の關稅を課するに至つて外國貿

易は衰へ我國の船も年に三隻も行かないようになつた、反之フロレンスは關稅が低いので殷盛である。

英國の沿岸は鯡の產地であるが此漁業に従事するものは多く和蘭人で丁抹維威瑞典露西亞に鯡を盛んに輸出する、然も英國人は殆んど之に關係しては居ない。ハンブルグ、ブレーメン、エムデンから更にエルベ河を溯り式はライン河を溯つてフランクフルト、アン、マイン迄も鯡を賣りに行くが其も和蘭人で英國人でない、神が英國に與へて呉れた天然の富源を英國人は利用する事を知らないで和蘭人に持つて行かれてゐるのである。

佛蘭西及西班牙には葡萄と鹽とがあるが其商人は和蘭人であつて年に一千艘の船を送つて葡萄酒と鹽とを運搬するが我英國人は此事には少しも關係して居ない。

製材業に於ても織物業に於ても和蘭は英國より優れて居つて原料を取つて來て之に加工して外國へ賣出して利益を得てゐる。和蘭は一年に

一千艘の船を造る。然も其材料は外國から得たものである、之に反して我英國は天然の森林に富むから船を造るに容易であり且つ一千艘位の船に積む商品も直ちに集める事が出来るから盛んに航海を續ける事によつて年一年國富を増進する事が出来るであらう。露西亞とは七十年來交通があり殊に十四年前には可なり商取引があつたが三年前には唯四隻行つたのみであるが和蘭は反之二十年前に初めて二隻の船が通つたのであるが此頃は年々三十隻乃至四十隻の船が通商する、中にも大きな船は我英國船の二隻分位なのもある。彼等は英國の織物と餅を持つて行くのであるから我國が露西亞との通商を振興するに於ては彼に負けることはない。

英國では(一)商人が有利でない事(二)製造業が完全でない事(三)英國貨幣が不良で價值少き事の三原因で貿易が振はないのである。殊に第三の原因によつて一〇%から一二%位和蘭よりも損失がある。

織物類が白地でアムステルダムへ積出され其

處で染められて西班牙葡萄牙に輸送せられ然も其織物にはアムステルダム製のマークが附けられて聲價を高めてゐる、此等は英國で出来る事で和蘭のために利益を得られて居るのだから是非國內工業を盛んにせなければならぬ國內工業が盛んになれば貧民が業に就くを得且つ織物業では染料を外國から輸入し製品を外國に出すごとに自國の船を使用すれば其だけ彼等海運業者の利益ともなるのである。

漁業に就いては巨額の出費をして海岸に漁業市を作る事が必要である、漁業者には必要に應じて金を貸し與えて漁船、網其他の漁具を整えしめる事が肝心である。そうすれば和蘭人の侵入を防ぐ事が出来るであらう。

以上述べ來つた處を要約すれば和蘭に打勝ち英國の國富を増進する事が唯一の目的であつて其目的を達するために第一に船を多く作る事と國內産業を興すことで次で商人に特權を與えて活動せしめ關稅を低下して通商に便にし貿易の權衡によつて *faourable Balance* を作つて國富を増進するにある。